

北欧から 柔軟な発想力と持続する行動力を心掛けて -

SINTEF Materials and Chemistry (Norway) 熊切 泉

男女平等が進んでいると言われている北欧の1ヶ国ノルウェーでも、工学分野で働く女性研究員や学生の数がとても少ないと言ったら、驚かれるでしょうか。極身近な例をあげれば、私が所属しているグループには10人の研究者がいます。その内、女性は2人。数十人規模の Materials & Chemistry 部門全体では、女性研究員は一割に達しません。かえって、以前滞在していたフランス CNRS-IRC(国立研究所、触媒研)や、スペインの大学(化学工学)の方が女性研究員や学生数は多かったように思います。国ごとの女性研究者比率は、OECD 統計等で見ることができます。各々の国の理由を推測するのも面白いのですが、ここではもう少しノルウェーのお話をたくさん存じます。

ノルウェーの大学を見てみると、フランス語学科は99%が女子学生(各学年に1人男子学生がいるかどうか)、化学・バイオ分野で半々、工学・物理分野では各研究室に女子学生が1, 2人ということも珍しくないようです。

こうした、男女数の偏りはノルウェーでも問題になっています。その原因を幼児教育の在り方に帰着する論調を最近耳にしました。女兒と男児で興味の持ち方が違うのに、男児に合わせて教材が作られている。そのために工学に興味を持つ女兒が少なく、進学率も低い、というのです。そういった教育のあり方を含め、まだまだ社会システムを改善していかななくてはならないという意識が高いように見えます。

学生さんや研究員の方々からは、“家庭内の事は女性を取り仕切ることが多いから、実験で時間が不規則な研究員の仕事を続けることは難しい”という話や、“女性は年上の男性と結婚することが多く、経済力の高い男性の仕事の方が優先されがち”という意見を聞きました。加えて、女性は工学より文科系の勉強をしたほうが良いという考え方も根強く残っているようでした。とくに、女性は子供関係の仕事や文学を好むのよ、という発言は、男性からよりもむしろ、女子学生や女性研究員から何度も聞きました。

この国では時に過敏なまでに男女平等が主張されます。例えば、ドアを開けてくれた男性に、“私だってドアくらい開けられます！”と怒り出す女性がいます。社会制度も発達していて、1年の育児有給休暇(夫・妻のどちらがとっても良い)や、幼児が病気の時の有給休暇など、実際に多くの方が利用しています。それでいて、女性なのだから・・・という発想も心の底にあるようで、もしかしたら女性の活躍分野を制限しているのは、因習に囚われた女性自身なのかもしれません。

先日オペラを鑑劇する機会がありました。演目は魔笛。あゝまた古めかしい服を着ていて、パパゲーノは緑の羽で飾られた変な格好で、退屈して寝てしまうかも・・・と無粋な心配をしていたのですが・・・。カタルーニャの La Fura dels Baus との共同演出の映像や照明を多彩に用いた舞台でした。赤い皮ジャンのパパゲーノはもてない我が身を嘆き、クレーンで空中に現れた夜の女王は

照明効果によって燦然と輝いて。昔からの同じ音楽、同じストーリー展開なのに、登場人物たちの気持ちがより身近に鮮明に伝わってきます。観客席の子供達も思わず声をあげたり、オーケストラメンバーが上を見上げていたり。オペラは古い型を大事にしているブルジョワのためのものだから私は見に行かない、という友達があります。私もオペラ＝堅苦しいという先入観を持っていましたから、身近にあって生き生きとした舞台はとても新鮮でした。型を伝えていくことも大事ですが、新しいものを持ち込むことで、一新することもできるのですね。

男性の職場とみなされがちな工学の分野で女性が働くには、家庭・社会の理解やサポートが必要だと言われています。女性が働きつづけるにはそれだけでは十分ではなくて、女性自身が柔軟な発想力とそれを実現しようとする行動力を持つことも大事なように思います。結婚・育児と研究をどうやって両立して行くかは、30代の女性研究者が集まると必ず登場する話題のひとつです。私達は、同年代の男性研究者と同じように各々のキャリア構築に悩みながら、同時に、新しい生活の形を模索しています。生き生きと色々なことにチャレンジしている、同じ悩みを分かち合える仲間がいることに、とても励まされます。一見不可能に見えることも、もしかしたら不可能だと思うのは既成の概念に沿って考えているからかもしれません。見方を変えたら、より面白い世界がその先にあるのかもしれない。私達一人一人が、色々なことを楽しみながら試行錯誤していく先に、新しい化学工学の応用分野や、多様性のある、より魅力的な生活スタイルができてくるのではないのでしょうか？



熊切 泉 (くまきり いずみ) 氏

SINTEF Materials and Chemistry (Norway)
Department of Energy Conversion and Materials
Research Scientist
<http://www.sintef.no>

博士(工学)

(最終学歴: 東京大学大学院工学系研究科
化学システム工学専攻)

izumi.kumakiri@sintef.no